

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
西鉄自動車整備専門学校	昭和52年12月1日	椎葉 小夜子	〒 816-0922 (住所) 福岡県大野城市山田3丁目12-1 (電話) 092-581-7435																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人西鉄学園	昭和37年2月27日	部谷 由二	〒 816-0922 (住所) 福岡県大野城市山田3丁目12-1 (電話) 092-586-2480																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
工業	工業専門課程	自動車整備科	平成7年度文部科学省告示第7号認定	-	平成28年度																														
学科の目的	即戦力としての知識・技術を習得、コミュニケーション力や社会人マナーに優れ、業界で働く覚悟を持った人材の育成をする。併せて、整備士養成機関としての使命を果たすべく、二級自動車整備士資格の全員取得を教育目的とする。																																		
学科の特徴 (取得可能な資格、 中退率等)	隣接する自動車学校の教習で実際に公道を走っている「現役の車」を整備できる。大型トラック・特殊車両・自動二輪車まで100台以上の車両で幅広い整備技術を学べる環境が整っている。授業・実習の一環として車両点検や車輛整備だけではなく運輸支局へ行って車検を受ける工程まで経験でき、超実践的な実習で即戦力を養う。 取得可能な資格 二級ガソリン自動車整備士・二級ジーゼル自動車整備・中古自動車査定士(小型)・電気自動車等の整備業務に係る特別教育・ガス溶接技能講習・アーク溶接特別教育 他 中退者等 2年次 1名 1年次 4名 中退率 7.5% 主な理由 進路変更・学習意欲の衰退 他																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,408 単位時間 - 単位	1,025 単位時間 - 単位	0 単位時間 - 単位	1,383 単位時間 - 単位	0 単位時間 - 単位	0 単位時間 - 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																																
70人	61人	18人	30%																																
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■ 卒業者数 (C)</td><td>30</td><td>人</td></tr> <tr><td>■ 就職希望者数 (D)</td><td>30</td><td>人</td></tr> <tr><td>■ 就職者数 (E)</td><td>29</td><td>人</td></tr> <tr><td>■ 地元就職者数 (F)</td><td>26</td><td>人</td></tr> <tr><td>■ 就職率 (E/D)</td><td>96</td><td>%</td></tr> <tr><td>■ 就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)</td><td>89</td><td>%</td></tr> <tr><td>■ 卒業者に占める就職者の割合 (E/C)</td><td>96</td><td>%</td></tr> <tr><td>■ 進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■ その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■ 主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) メーカー系自動車販売会社 自動車整備業界</p>							■ 卒業者数 (C)	30	人	■ 就職希望者数 (D)	30	人	■ 就職者数 (E)	29	人	■ 地元就職者数 (F)	26	人	■ 就職率 (E/D)	96	%	■ 就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	89	%	■ 卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	96	%	■ 進学者数	0	人	■ その他			
■ 卒業者数 (C)	30	人																																	
■ 就職希望者数 (D)	30	人																																	
■ 就職者数 (E)	29	人																																	
■ 地元就職者数 (F)	26	人																																	
■ 就職率 (E/D)	96	%																																	
■ 就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	89	%																																	
■ 卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	96	%																																	
■ 進学者数	0	人																																	
■ その他																																			
第三者による 学校評価	<p>■ 民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																		
当該学科の ホームページ URL	https://www.nishitetsu-seibi.ac.jp/																																		
企業等と連携した実習等の 実施状況(A、Bいずれ かに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>31 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>7 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>18 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>18 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>18 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>- 単位</td></tr> </table>							総授業時数	31 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	7 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	18 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	18 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	18 単位時間	総授業時数	- 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位	うち必修授業時数	- 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位
総授業時数	31 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	7 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	18 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	18 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	18 単位時間																																		
総授業時数	- 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位																																		
うち必修授業時数	- 単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位																																		
教員の属性(専任教員に ついて記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>0人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	5人	計	9人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	4人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	5人																																		
計	9人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育の質の保証及び改善をするため、教育活動の状況に関する評価を行い、業界の要請を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・学校評価実施規程第11条
- ・校務運営規程第5章 教育課程編成委員会第9条
- ・校務運営規程第7章 校務分掌第12条二項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
井上 皓介	トヨタカローラ福岡株式会社 総務部 人事グループ グループ長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
石丸 淳一	トヨタカローラ福岡株式会社 サービス部 技術グループ グループ長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
寺崎 浩二	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 指導部 部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
目原 宏輝	教頭	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—
浅井 朋晃	総務・学生課 係長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—
森田 悠暉	教務・就職課	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、9月)

(開催日時(実績))

- 第1回 令和5年8月24日 11:00～11:50
- 第2回 令和5年9月14日 15:00～15:50

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

企業の採用担当者協力のもと、新入生オリエンテーション内で報告・連絡についてのセミナーを実施。報告・連絡・相談の重要性について考えさせる機会を設けた。これにより報告・連絡・相談が重要な理由を理解させた上で、行動につながるよう指導に努めている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携により、勤務体制を通じて実務に関する知識、技術及び技能を習得し、社会人として必要な能力を育成することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実施前に打ち合わせを行い実習内容詳細について決定する。実習期間中、担任、教務・就職課が各企業を訪問し、学生の学修状況について直接確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。
実習終了時には、実習担当者による学生の学修成果の評価をふまえ、担任が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業実習 ①	企業採用担当者の方から社会人としてのマナー、心構え等を説明していただき、働くことの意味、仕事に対する理解を深め、就職に対する意識を早期に持たせる。夏季に行う企業実習に対する注意点などを事前に説明する。	トヨタカローラ福岡(株) ネットヨタ福岡(株) 福岡トヨペット(株) 福岡トヨタ自動車(株)
企業実習 ②	授業で学習した知識と実技の一体化を図ることを目的とする。また、現場を経験することにより社会人としての厳しさを意識させるとともに基本的な業界の知識、顧客サービスや整備技術の習得を目的とする。	トヨタカローラ福岡(株) 福岡トヨペット(株) 福岡トヨタ自動車(株) ネットヨタ福岡(株) ネットヨタ西日本(株) トヨタカローラ博多(株) 日産福岡販売(株) (株)ホンダ四輪販売九州北 (株)ホンダカーズ博多 (株)九州マツダ 福岡スバル(株) (株)スズキ自販福岡 九州スズキ販売(株) いすゞ自動車(株) UDトラック(株) 三菱ふそうトラック・バス(株) (株)ヤナセ (株)バージョングループ 富士自動車(株) 日本自動車連盟福岡支部 (株)クールホールディングス
企業実習 ③	夏季の企業体験で学んだことを踏まえ、就職活動についてのより実践的な講義やロールプレイングを行い、学生の仕事に対する意識や覚悟を高める。また、企業の評価について検証を行い課題を認識し、改善を図る。	トヨタカローラ福岡(株) ネットヨタ福岡(株) 福岡トヨペット(株)
企業実習 ④	日産EV(電気自動車)やe-power(ハイブリッド自動車)等の実車を学校に持ち込んでいただき、技術講義を受講したり、自動運転技術や走行性能を体感したりすることにより、自動車の最新技術や安全性能、環境問題等を理解する。	日産自動車(株) 九州日産(株) 日産福岡販売(株) 北九州日産モーター(株) 日産プリンス山口販売(株) 山口日産自動車(株)
企業実習 ⑤	大型トラック等の実車を学校に持ち込んでいただき技術講義を受講したり、自動ブレーキサポートシステムや大型トラックの走行性能等を同乗体感することにより、物流を支える人々やトラックの大切さ、労働環境の改善に関わる技術革新を理解する。	いすゞ自動車九州(株)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

職務の遂行に必要な知識及び技術等を習得させ、その遂行に必要な教職員の能力および資質等の向上を図る。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日産技術講習会	連携企業等:	日産自動車株式会社
期間:	8月2日	対象:	教職員
内容	日産のインテリジェントモビリティ・プロパイロット2.0・衝突軽減システム・e-PEDAL等の最新技術を体験し学生の教育等に役立てる。		
研修名:	スバルオンライン技術研修	連携企業等:	福岡スバル株式会社
期間:	8月4日	対象:	教職員
内容	スバルの安全思想・基本思想・EV車やメカニックの働き方改善の取り組みを知ることで、学生の教育や就職支援等に役立てる。		

研修名:	第46回経営研究会(オンライン)	連携企業等:	全国自動車大学校・整備 専門学校協会
期間:	9月7日	対象:	教職員
内容	自動車整備士の現状・社会的地位・待遇の問題等を再確認し、今後の教育に関する取り組み等を考える。		
研修名:	整備主任者研修	連携企業等:	九州運輸支局
期間:	10月13日	対象:	教職員
内容	自動車整備事業の現状把握、自動車関係法令の変更点確認		
研修名:	自動車検査員法令研修	連携企業等:	九州運輸支局
期間:	1月～2月	対象:	教員
内容	自動車整備事業の現状把握、自動車関係法令の変更点確認		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	大学・専門学校等教職員向け 安心・安全講座	連携企業等:	福岡県消費生活センター
期間:	8月22日	対象:	教職員
内容	サイバー犯罪や若者の消費者トラブルの現状や法改定について理解し、学生達のトラブル回避に役立てる。		
研修名:	新任教員研修	連携企業等:	一般社団法人職業教育・ キャリア教育財団
期間:	8月2日～8月4日	対象:	教職員
内容	専修学校教育の在り方と授業実践、青年期の学生との向き合い方等を習得し、学生の教育・指導に役立てる。		
研修名:	JAMCA教職員夏季研修会	連携企業等:	全国自動車大学校・整備 専門学校協会
期間:	8月16日～19日	対象:	教職員
内容	学生の心理を理解し、指導方法とコミュニケーションの技法を習得し、学生の教育・指導に役立てる。		
研修名:	福岡雙葉中学校・高等学校公開授業	連携企業等:	福岡雙葉学園
期間:	10月15日	対象:	教職員
内容	ICTの活用例と利便性等を学び、ICT授業を見学することで、今後の学生教育・指導に役立てる。		
研修名:	学校経営管理者向けセミナー	連携企業等:	全国専門学校教育研究 会
期間:	1月23日～1月24日	対象:	教職員
内容	職業教育のマネジメントや学校の魅力を向上させるための情報公開を通じて、今後より良い学校運営を目指す。		
(3) 研修等の計画			
① 専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	日産技術講習会	連携企業等:	日産自動車株式会社
期間:	8月2日	対象:	教職員
内容	日産のインテリジェントモビリティ・プロパイロット2.0・衝突軽減システム・e-PEDAL等の最新技術を体験や、主要部品の共用化などSDGsの観点を学び、学生の教育等に役立てる。		

研修名:	SUBARU技術研修会	連携企業等:	株式会社SUBARU 福岡スバル株式会社
期間:	8月3日	対象:	教職員
内容	SUBARUの安全思想・車両開発・カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み、またディーラーメカニックをモータースポーツに派遣する目的や、電気自動車の整備性等について学び、学生の教育・指導に役立てる。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	西鉄グループ次世代リーダー育成プログラム	連携企業等:	西鉄エアサービス株式会社
期間:	6月15日	対象:	教職員
内容	研修を通じて将来のビジョンを描いたり、自身や他者と向き合いどのような意識を持ちながら仕事しているか情報交換を行う。また、企業の使命について考えたり、コミュニケーションスキルを身に付ける。		

研修名:	にしてつグループ管理者研修	連携企業等:	西鉄エアサービス株式会社
期間:	7月20日～7月21日	対象:	教職員
内容	管理者としてのスキルや人材育成スキルを習得し、より良い学校運営を目指す。		

研修名:	JAMCA教職員夏季研修会	連携企業等:	全国自動車大学校・整備 専門学校協会
期間:	8月1日～4日	対象:	教職員
内容	学生の心理を理解し、指導方法とコミュニケーションの技法を習得し、学生の教育・指導に役立てる。		

研修名:	新任教員研修	連携企業等:	一般社団法人職業教育・ キャリア教育財団
期間:	8月1日～8月3日	対象:	教職員
内容	専修学校教育の在り方と授業実践、青年期の学生との向き合い方等を習得し、学生の教育・指導に役立てる。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育の質の保証・改善、社会に対する説明責任、学校評価を通じたガバナンス改善に向けた自主的な取組を促進していくことを目的とし、学校の教育活動や学校運営の状況に対して外部の学校関係者による評価を行い、その結果を教育活動・学校運営に活用する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・理念等の達成に向けた特色ある活動
(2) 学校運営	・理念等を達成するための事業計画
(3) 教育活動	・教育目的・目標に沿った教育課程 ・キャリア教育の実施 ・資格・免許取得の指導体制
(4) 学修成果	・資格・免許の取得率向上への取組み
(5) 学生支援	・就職等進路に関する支援組織体制 ・退学率の低減 ・学生相談に対する相談体制 ・保護者との連携体制の構築
(6) 教育環境	・教育上の必要性に十分対応した施設、設備等の整備 ・学外実習 ・インターンシップ等の実施体制の整備

(7)学生の受入れ募集	・接続する教育機関に対する情報提供の取組み
(8)財務	・学校の財務基盤体制 ・予算、収支計画の適正性 ・会計監査 ・収支状況の公開体制
(9)法令等の遵守	・学校が保有する個人情報保護に関する対策の実施
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源を活用した社会貢献、地域貢献の実施
(11)国際交流	・留学生の受け入れ、実施状況

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

業界の現状として、お客様対応の課題が大きく、言いたいことがあっても自分の考えを相手に伝えることができず、トラブルに発展することも増えている。これに対応するために、自分の考えを言語化する訓練として、毎日学生スピーチを行うこととして、自身の考えをアウトプットする機会を設けている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
井上 皓介	トヨタカローラ福岡株式会社 総務部 人事グループ グループ長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	自動車業界
石丸 淳一	トヨタカローラ福岡株式会社 サービス部 技術グループ グループ長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	自動車業界
寺崎 浩二	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 指導部 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	業界団体
平野 孝幸	高等教育有識者 高等学校校長経験者	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	教育有識者
松尾 哲也	日産福岡販売株式会社 サービス本部HITEQセンター 課長代理	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.nishitetsu-seibi.ac.jp/>

公表時期: 令和5年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者との連携及び協力の推進に資するため、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を、具体的に分かりやすく、且つ積極的に提供するものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・建学の精神 ・教育方針 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・収容定員 ・カリキュラム ・資格

(3)教職員	・教員の担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育 ・企業実習 ・就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事
(6)学生の生活支援	・学生支援(健康診断、学生相談等)
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・経済的支援措置(奨学金、授業料減免等)
(8)学校の財務	・収支状況
(9)学校評価	・自己点検・評価、学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・留学生の受入れ、実施状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.nishitetsu-seibi.ac.jp/>

公表時期: 令和5年10月1日

授業科目等の概要

工業専門課程 自動車整備科 令和4年度																
No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ガソリンエンジン構造	ガソリンエンジンの構造、作動について理解する	1通	45		○			○		○		
2	○			ディーゼルエンジン構造	ディーゼルエンジンの構造、作動、関連部品等の構造、作動を理解する	1 2 後 前	50		○			○		○		
3	○			シャシ車体構造	シャシ関連の部品の構造、作動等を理解する	1通	130		○			○		○		
4	○			電装品構造	電気の基本と電装品の構造、作動を学ぶ	1通	83		○			○		○		
5	○			特殊機構	エンジンの電子制御システムやハイブリッド自動車のシステム等を学ぶ	2前	40		○			○		○		
6	○			自動車の力学・数学	自動車整備などに関する計算問題を理解する	1 2 通 前	52		○			○		○		
7	○			電気・電子理論	半導体の基本と通信システムを学び理解する	1後	27		○			○		○		
8	○			材料	自動車に使われている材料の特徴、材質、用途などを理解する	2前	25		○			○		○		
9	○			燃料・潤滑剤	自動車に用いられる燃料や油脂類の種類、性質、特徴などを学ぶ	1前	30		○			○		○		
10	○			図面	製図で使われる記号や用いられるルール等の基礎を学ぶ	2前	16		○			○		○		
11	○			ガソリンエンジン整備	ガソリンエンジンの構造、作動等を確認し、点検整備法を学ぶ	2前	32		○			○		○		
12	○			ディーゼルエンジン整備	ディーゼルエンジンの構造、作動等を確認し、点検、整備法を学ぶ	2前	30		○			○		○		
13	○			シャシ車体整備	シャシ関係の部品の構造、作動を確認し、点検、整備法を学ぶ	2前	40		○			○		○		
14	○			電装品整備	電装品の構造等を確認し、点検、整備法を学び実践につなげる	2前	40		○			○		○		
15	○			故障原因探究	各装置の故障現象とその診断について学び理解を深める	1 2 後 前	76		○			○		○		
16	○			整備作業機器	自動車整備に使われる整備機器とその使用方法について学ぶ	1前	12		○			○		○		
17	○			測定機器	自動車整備で使われる測定機器とその使用方法、数値の読み取り方を学ぶ	1前	12		○			○		○		

18	○	検査機器	自動車整備で使われる検査機器とその使用方法について学ぶ	1 後	12	○		○	○	○								
19	○	自動車検査	自動車の定期点検に関する法令を学ぶ	1 後 2 前	30	○		○	○	○								
20	○	自動車整備に関する法規	道路運送車両法や法安基準など整備士として必要な法令関係を学ぶ	2 前	30	○		○	○	○								
21	○	安全管理	整備作業をする上での安全対策について学ぶ	1 通	5.5	○		○	○	○	○							
22	○	工場管理	工場内の各設備の取り扱い等を学ぶ	2 後	7	○				○	○	○						
23	○	社 会	社会人としてのマナーなど知識全般を身につける	1 通 2 通	182	○		○	○	○	○							
24	○	体 育	校外での行事を通してリレーションを構築する	1 前 2 前	18	○				○	○							
25	○	手仕上げ工作	工作機器について知り、実際に使って作業をする	1 前	24.5				○	○	○							
26	○	機械工作	溶接機器について知り、実際に使って作業をする	1 前	24.5				○	○	○							
27	○	基本計測	自動車整備に用いられる測定具を知り、実際に使いこなす	1 通	57				○	○	○							
28	○	ガソリン 点検・分解・組立 調整・検査	ガソリンエンジンや部品の分解、点検組立てなどの実習を行う	1 通 2 通	245				○	○	○							
29	○	ジーゼル 点検・分解・組立 調整・検査	ジーゼルエンジンや部品の分解、点検組立てなどの実習を行う	1 通 2 通	162				○	○	○							
30	○	シャシ 点検・分解・組立 調整・検査	シャシ関係の部品の分解、点検組立てなどの実習を行う	1 通 2 通	260				○	○	○							
31	○	電装品 点検・分解・組立 調整・検査	電装品の分解、点検、組立て、電気装置のシステム点検などの実習を行う	1 通 2 通	217				○	○	○							
32	○	故障原因探究	自動車に発生した故障を診断し修復作業を行う	1 通 2 通	302				○	○	○							
33	○	自動車検査作業	自動車が保安基準に適合するか検査ラインで完成検査を行う	1 後 2 通	60				○	○	○							
34	○	企業体験実習	企業での社会体験を通して実際の仕事を体感する	1 通	31				○	○	○			○	○			
合計				34科目	科目	2407.50		単位(単位時間)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	卒業年次の出席率が90%以上で、課程が合格点に達していること。 国土交通省の規定のもと、学科(講義)600時間以上、実習1200時間以上の受講。	1学年の学期区分	2期
履修方法:	規定以上の出席率と学科、実習の規定時間以上の受講、かつ試験で合格点以上取得すること。 出席日数、受講時間が規定に満たない場合は、補習や補講にて補うことができるものとしている。	1学期の授業期間	27週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。